

# 科学博物館ニュース速報



Vol.54

2023/3/24

## 館長よりメッセージ

➤ 科学博物館長・工学府工学部教授 金子 敬一

あつという間に年も改まり、気が付けば年度末を迎えています。

この間、2月4日(土)から11日(土)にかけて、科学博物館の支援組織である友の会の第39回サークル作品展が開催されました。3年ぶりの開催のため、私が館長になってからは、初めてとなります。組ひも、藍染、手紡ぎ、織物、わら工芸、紬溜かご、絹、レース、ひも結び、型絵染めの順に拝見させていただきました。今年はコロナ禍の中、何とかサークル活動を再開し、多くの制約と厳しいスケジュールのもと活動していただいたため、十分な時間が取れず、作品展についても心配していました。しかしながら、それはまったくの杞憂で、素晴らしい作品展でした。実は、3年前の作品展も拝見して、それと比較してもまったく遜色なく、立派な作品が揃っていました。

また、わら工芸サークルには、昨年末に正月飾りをいただき、我が家の玄関に飾らせていただきました。例年のものに比べて、あまりに豪華なので、思わず記念写真を撮りました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



わら工芸サークル製作  
の正月飾り

また、3月4日(土)には、友の会の修了式があり、こちらも参加させていただきました。修了式も3年ぶりですので、私にとっては初めての参加でした。時間の関係で、修了者のうち、各サークルの代表者だけに修了証をお渡しする形となりました。2年間の休会を乗り越えて勝ち取った修了ですので、修了生の皆様は晴れやかで、嬉しさに満ち、式自体もとても華やいだ雰囲気で行われたように思います。

さらに、3月18日(土)には、こちらも科学博物館の支援組織である、学生サークル musset の創立10周年交流会が予定されています。私も招待いた

だいており、参加を楽しみにしています。

4月からは館長として最後の年度になるかと思います。この3年間は非常に苦しい時期でありましたので、その分、最後の1年間は思い切り楽しみたいと考えています。引き続き、科学博物館をお引き立てください。

## 目次

- 館長よりメッセージ／金子敬一……………P.1
- 新宿御苑で農工大の痕跡を探す／横山岳……………P.1
- 「実綿(みわた)から綿の糸へ」ワークショップ開催  
／齊藤有里加・友の会手紡ぎサークル……………P.2
- 第39回サークル作品展報告  
／東京農工大学科学博物館友の会……………P.3
- 収蔵資料活用報告／保池琢……………P.6
- 編集後記……………P.6

## 新宿御苑で農工大の痕跡を探す

➤ 科学博物館副館長・農学部農学准教授 横山 岳

東京農工大学は明治7年、内務省勧業寮内藤新宿出張所に設置された農事修学場と蚕業試験掛から始まります。内藤新宿出張所は現在の新宿御苑です。その後、農事修学場は明治14年に駒場農学校として移転(現目黒区上目黒)、蚕業試験掛は明治17年に蚕病試験場として移転します(現千代田区内幸町)。

蚕病試験場はその後、(北区)西ヶ原、小金井へと移転して農工大の工学部となりました。科学博物館は西ヶ原時代(明治19年)に設置された「参考品陳列場」に発します。駒場農学校から農工大農学部、東京大学農学部、筑波大学の一部に派生していきました。北海道大学農学部は明治9年札幌農学校開校、東京大学工学部は明治19年帝国大学工科大学開校が由来ですから、私達東京農工大学の農学部や工学部が日本で最も長い教育と研究の歴史を有していることになります。

勧業寮内藤新宿出張所の農事修学場と蚕業試験掛当時の古地図を学芸員の齊藤先生に見つけていただきました。それには田、畑、茶畑、畜舎、桑畑、蚕室、製糸場などが記載されていました。そこで、現在の新宿御苑のどの辺りにそれぞれの施設があったのか、1月に齊藤先生、歴史学の高橋美貴教授と私の三人で探索してきました。当時の施設は当然残っていませんので、古地図と照らし合わせてそれぞれの施設の場所の推定を試みました。

まず、当時の製糸場は水車を動力としていたので、その水路跡を探してみました。新宿御苑の北側に走る玉川上水の水を北東角から玉藻

池に引き込んでいたようです。古地図と照らし合わせて、当時の水路の痕跡を見つけることができました。製糸場は現在の玉藻池の北東の通路にあったようです(図1)。田は中の池、下の池になっていました。池の水を抜いて田の痕跡を見つけてみたいものです(図2)。その他の施設は跡形も無く整地されていました。通常、桑樹は伐採されても根が残っていたり、種が鳥に運ばれたりするので無くなることはないのですが、新宿御苑内には桑樹が全く生えておらず、徹底した整地がなされていたものと思われました。

明治7年(1874年)からそろそろ150年、東京農工大学の創基150年の記念イベントが計画されています。勸業寮内藤新宿出張所農事修学場と蚕業試験場で行われていた教育・研究についてはほとんど不明です。現在、当時の事柄についての資料・情報を集めております。資料・情報をお持ちの方は是非博物館までお知らせください。



【図1】製糸場の跡：玉藻池の北東の通路



【図2】田の跡：中の池

新宿御苑で農工大創基  
150周年イベントする  
ワン!

情報募集中! 待ってる  
ワン!



## 手紡ぎサークル協力による「実綿(みわた)から綿の糸へ」ワークショップ開催

➤ 科学博物館学芸員・特任助教 齊藤 有里加

本企画は #ワタを育てて機械を動かそう の関連企画として、友の会サークル作品展開催期間に実施しました。ワタを種子から育てたことがない人も、実綿を綿繰り器で種子とワタに分けるところから、最後に糸になるところまで体験することができました。

一方で、今回はコロナ明けに企画実施の見込みがついてから大変短い期間で企画が動き、お声をかけさせていただいた手紡ぎサークルの皆さんには、ガラ紡のプロジェクトについて十分な説明ができなまま当日を迎えてしまいました。急な依頼にも関わらず、手紡ぎサークルの卒業生がひと肌脱いでくださり、スピンドル、チャルカ、糸車といった手で行う糸紡ぎを一度に体験できる貴重な機会にもなりました。ご協力をいただきました手紡ぎサークル、手紡ぎサークル卒業生、友の会の皆様、ありがとうございます。

当日は2月5日、2月9日共に70名以上の参加がありました。たくさんの方に種子から育てた植物が糸になることを実感していただけたと思います。

来年度も引き続きワタに関するプログラムを実施し、博物館における繊維技術の発信をしていきたいと思っています。引き続き、よろしくお願いいたします。



スピンドル体験コーナーでは、小さな来館者も頑張って紡いでくれました。

➤ 手紡ぎサークル 松本 浩子

多数の方々にご参加いただき、楽しい時間を過ごすことができました。こんなに綿に興味を持ってくださる方が多く、糸にしてみたいとチャレンジしてくださり、私自身勉強にもなりましたし、今後の活動への励みにもなりました。手紡ぎサークル代表の泉田さんには、作品展でご自身のこともお忙しい中、企画・準備・当日のお手伝いにご尽力いただき、感謝いたしております。ありがとうございます。



ました。たまたま見に来られた卒業生も機転を利かせて手伝いに入ってくださったりして助かりました。さすがです！

お忙しい中とは思いますが、博物館（齊藤先生）にも事前に詳しくお話を聞かせていただき、開催するにあたっての経緯などお話しただければ、より趣旨に添えたのではないかと感じました。

#### ➤ 手紡ぎサークル OG 山崎 まゆみ

綿のワークショップを作品展でやりますから、お手伝いしてください。と言われた時にとっても嬉しかったです。

自分もまだ素晴らしい糸が紡げると言うわけでは無いけれど、紡ぐ楽しさを作品展にきてくださる方々に少しでも伝えられるなら、と思ったからです。しかし羊毛と違い綿を紡ぐと言うのはとても難しくて初めての方に伝えられるのかな、と少し心配になりました。

当日、部屋を覗いてくれて、体験したいと言う方がたくさんいらっしゃいました。もちろん中々思う様には紡げません。しかし皆さん楽しそう。難しい～！と言いながらも真剣に向き合っていました。

とても良い時間が持てたと思います。これがきっかけで綿を紡ぐことや洋服を大切に作る気持ちが伝わっていたら嬉しいな、と思いました。齊藤先生はじめ友の会、手紡ぎサークルの方々、ありがとうございました。

#### ➤ 手紡ぎサークル 蒲生 優子

手紡ぎサークルの数々の OGB に混ざって、スタッフとして活動できたことは、私にとって大きな収穫となりました。

手仕事を重ねていくこと、道具を育てること、その魅力を多くの人に伝えていくこと。先輩方の熱意とパワーに圧倒されつつ、来場された方々に少しでも興味をもつお手伝いが出来れば、と夢中で過ごした2日間でした。私も「綿の事ならあの人に聞いてごらん」といつか言ってもらえる日が来るように、これからも勉強を続けていきたいと思っています。

#### ➤ 手紡ぎサークル 高倉 裕子

綿のワークショップに参加させていただき、ありがとうございました。私は主に、綿繰り機のコーナーを受け持ちました。初めての方ばかりで、「大丈夫かな？」と不安な様子でしたが、ローラーを回しはじめて、種が手前に綿が向こう側に出てくるのを見て皆さん「わーっ」と笑顔になっていました。その綿が最後にはちゃんと糸になり、大事そうに糸玉を持ち帰る方々を見て、こちらも嬉しくなりました。綿のカーダー掛けやチャルカのやり方など、先輩方に少し教えていただきました。そうした交流も貴重でしたし、楽しかったです。



インドの紡ぎ車、チャルカ。手紡ぎサークル会員の丁寧な指導で、初めて体験した方も糸を紡ぐことができました。

## 「第39回サークル作品展」報告

➤ 第39回サークル作品展実行委員長 小宮 雅子

2023年2月4日（土）～11日（土）第39回サークル作品展が開催されました。今年度の作品展は三年ぶりの開催となりました。マスク着用、アルコール消毒と換気の徹底など未だ新型コロナの影響の残る中ではありましたが待ちわびていたと言ってくれる方もあり、雪のための1日を除いて大変多くのかたが来場して下さいました。

今回、各サークルの活動内容を紹介するという初めての試みを行いました。それぞれ3分ずつですが、来場者だけでなく会員にとっても他のサークルを知る良い機会となりました。これをきっかけにサークル同士の交流が生まれる予感もしましたので、今後も続けてほしいと思います。



サークル紹介動画は農工大博物館 Instagram でご覧いただけます。

<https://www.instagram.com/tuatmuseum/>

#### ➤ 絹サークル 松田 信江

絹サークルでは、繭から真綿や糸を作る活動をしております。作品展では、多くの方に興味・関心を持っていただきました。真綿は繭から作られることに驚かれ、真綿から糸を作る紬糸と、繭から糸を引く生糸などの違いにまた驚かれました。学校で蚕を育てた小学生、子どもより興味いっぱいの親御さん、物づくりに興味のある方や、昔自宅で養蚕をしていた方まで、多くの方々と繭や絹のお話



が出来ました。作品を見て頂くだけでなく、繭に関してお伝えすることも勉強になりました。

絹サークルの作品はすべて、お蚕さんの作る繭から作られています。真綿の柔らかさ暖かさ、絹糸の美しさを多くの方に知っていただけよう活動を継承していきます。



#### ➤ 藍サークル 本間 彌生

コロナ禍で「藍建てができるか」「活動ができるか」多くの不安から始まった藍染サークルでしたから、作品展が開催できたことはとても嬉しいことでした。

「ワーきれい!」「別世界にいるよう」「これどう絞るのかな?」会場いっぱい展示した作品に多くの方々から感想が聞かれ、思わず微笑んでしまう場面が多くありました。修了生からはアドバイスも頂きました。このように作品展は、サークルにとって自信と共にこれからの課題ももてる有意義な場となりました。

また、今年度「藍染め」ができたことは、サークル一員の熱意、そして友の会・博物館の支援・理解があったこと感謝します。



#### ➤ 織物サークル 萩野谷 栄里

織物サークルは、博物館内の展示織機を使い作品を製作しています。2020年のコロナ感染により、当初、館内に入れない状況で一切活動は出来ませんでした。しかし2022年春、コロナ感染対策緩和により活動停止から2年ぶりに再開、わずかな時間でも織り進める事を目標に、各学年完成に向けて課題に取り組み、ほぼ例年通り習得することが出来ました。そして今年度の作品展の開催で、多くの来館された方々へお披露目が出来大変嬉しく思います。

また一方で、家族の事情や体調を崩され、余儀なく退会される方がおられました。その度にマネージャーとして無力さに打ちひしがれたことも事実です。一時は存続の危機もありましたが、友の会、並びに織物OGの皆さまの協力により2023年度の活動をご指導頂く事になり、サークルが途絶えること無く繋いでいけることに安堵しています。この場をお借りして心より感謝致しております。



#### ➤ 組ひもサークル 伊藤 らくみ

2022年度の活動最後の1月末、絹糸の光沢をもった色とりどりの帯締めが並びその数は70本以上、私達の学んできた成果です。作品目録用と作品展の展示用のパネルの撮影をするためですが、一つとして同じものはありません。

2020年度の休会が決まるまではLINEでの動画配信を試みたものの、組む強弱の微妙な感覚は対面で組み、触れて許容の固さを知る必要が求められました。仲間同士での会話や先輩の色の使い方に触れて自分のイメージを膨らませていく大切な事も知った期間でした。

活動再開が1時間30分と限られたスタートにも関わらず対面で出来る喜びにマネージャーは指導方法の工夫を、1, 2, 3年生は課題習得に集中し熱心に取り組んだ結果として、コロナ以前の全課程が次に繋がりました。作品展に来られた先輩の「よかったですね」の言葉は組ひも会員全員の気持ちでもありました。



#### ➤ 紬瑠かごサークル 田中 陽子

2年振りに作品展が開催されました。久しぶりの作品展は来館者も多く、また熱気もあり、多くの方たちに待ち望まれていたことを実感しました。そして、改めて地域の方たちへの感謝と責任を意識しました。紬瑠かごサークルの作品展実行委員は2年生ですが、石畳編みの体験コーナーやOBG会の作品コーナー等、多くの工夫を自分たちで考えて実行し好評でした。



今回、在校生は2年多く在籍となりましたが、その2年間も各自で研鑽していたようです。安心して、感謝と共に終了できます。友の会サークルの益々の発展を願います。



#### ➤ 手紡ぎサークル 泉田 イツヨ

コロナ禍2年の休会を経て4年生は2人になり、その1人である私が代表に、もう1人が役員をやることになりました。

再開当時は時短、人数制限などの制約が多く、通常活動には程遠い環境です。しかも、コロナに対する個人の考えを尊重するということで、その「自主性」が重んじられ、進級に必要なカリキュラムや出席率は問題視されなくなりました。卒業生のサポートが認められ、協力が得られたことは救いでした。

振り返れば、この一年間は、私を含めたサークル生全員の「自主性」との向き合い方だったような気がします。それでも、作品展で並べられた各学年の作品はいつもと遜色ない素晴らしいものでした。講習会で予定していた花のブローチをみんなで作り、手紡ぎサークルのフラッグにして掲げました。感無量です。無事作品展が終えられたことは、手紡ぎサークルの皆さん、偉大なる先輩たちのおかげです。ありがとうございました。



#### ➤ 型絵染サークル 遠藤 昭子

型絵染サークルは2020年と2021年の2年間は活動を全休止にしました。共同購入し保存している高価な備品類や薬品・糊・顔料等が外部に持ち出せず、活動はできないと判断したためです。

2022年4月に「短時間で分散」の活動許可が得られ、型絵染サークルは例年とは異なり、毎週の活動に切り替えてスタートしました。教室の使用は、同じ曜日の「手紡ぎサークル」との話し合いでうまく分散できました。

通常の1年間のカリキュラムをなんとかこなして、全員で進級したいという思いで始めました。宿題や自宅制作も多くなりましたが、12月末には一応カリキュラム達成のめどが立ちました。

「作品展」で完成品発表の場をいただき、先輩方やお客様に見て頂けて幸いでした。作品を通してサークル員の輝いた目や充実した姿もご覧いただけたと思います。達成感でいっぱいでした。

博物館職員様、先生、友の会の皆様に心からお礼を申し上げます。



#### ➤ レースサークル 斎藤 智子

3年ぶりに開催した作品展は、多くの来場者が訪れてくれるか・・・祈る気持ちで初日を迎えました。

予想に反して、多くの方々にご来場いただきました。私たちレースサークルにも多くの方々がご覧になり、熱心に作品をご覧いただき、今までになくお話が弾みました。

そして何より嬉しかったのは、サークルブースで行ったワークショップにて、お子様から「またサマーフェスタに行きたい!」と言われたことです。聞けば、毎年夏の楽しみにしているそうです。

私たちの活動が地域に根付き、役に立っているのだと実感したひと時でした。

この6年間は、目に見えない大切なものをいただいたと思います。感謝いたします。ありがとうございました。



#### ➤ ひも結びサークル 星合 民恵

ひも結びサークルで学ぶカリキュラムは、どれも省略できない結びばかりで、ひもの流れや結ぶ時のひもの引き加減等は、レシピを見るだけで学び取る事は難しいものです。



コロナ禍の活動は、限られたスペース・時間の中でしたが、全員が集い、学び合うことができ、作品展会場に所狭しと展示された作品を見たときは、喜びもひとしおでした。

作品展に昭和、平成、令和の OBG の皆さんがたくさん来館され、暖かい励ましを頂き、これからも研鑽を積み、ひも結びサークルを継承していく事の大切さを感じました。

2022 年度の活動は、他サークルとの密を避けるため、博物館内の部屋をお借りして活動ができたこと感謝いたします。有り難うございました。



#### ➤ わら工芸サークル 吉村 亜紀

今年度は6月から本格的に活動開始ではあったのですが、薫愛強しの気持ちで皆が作品に向き合い、沢山の薫細工を展示できて各自達成感を感じている様子を受けました。

友の会の作品展に私が初めて訪れた時、沢山の作品達に気持ちが躍ったのを今もよく記憶しています。最近の稲藁といえお正月飾りの時期にだけ少し身近になるのですが、稲藁をもっと生活に組み込ませたい！と思うきっかけでした。

そして2023年、2年度振りにそんな作品展が無事に開催された事、沢山の人が楽しんでくれていた場に居られた事、本当に「待ってたよー！！ありがとー！！」の気持ちしかありません。

これからも沢山の人の気持ちを動かし、技術の継承が見られる作品展が未長く続くことを願う気持ちで一杯です。



## 収蔵資料活用・取材報告

➤ 小金井地区事務部総務室科学博物館係長 保池 琢

### 1. 資料貸出1件

(1) デイリーサピックス小学五年生「社会」「昔の織り機」画像掲載

### 2. 取材及び掲載1件

(1) 多摩信用金庫発行「広報たまちいき 116号」文化&芸術欄に企画展「立体で診る～動物医療と先端技術～」掲載

## ◇編集後記◇

コロナ禍を経て3年振りの開催となった「友の会サークル作品展」雪の影響で中1日は早い時間に終了となりましたが、他の日はほぼお天気に恵まれ、累計2,441人もの来館者を迎えることができました。感染対策を怠らず、体調管理につとめて活動を続けてくださった友の会みなさん、本当にありがとうございました。

また、3月18日(土)に博物館支援学生団体 musset (みゆぜっと) の10周年記念イベントを開催しました。当日は創立メンバーを含めて学年を超えた貴重な交流の場となりました。次号で詳しくお伝えします。お楽しみに！



### 「科学博物館ニュース速報」第54号

発行日：2023年3月24日

編集：科学博物館ニュース速報編集委員会

発行：東京農工大学科学博物館

連絡先：kahaku@cc.tuat.ac.jp

042-388-7163